

平成24年度 新役員、事業計画など承認
通常総会**新理事長に早坂貞彦氏**

公益法人化に向け 8 月 18 日臨時総会

は
な
や
ま

発行
社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0102)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 早坂貞彦

平成二十四年度の宮城県芸術協会総会は、五月十二日午後二時四十分より仙台市福祉プラザで開かれ、二十三年度の事業報告並びに二十四年度の収支予算案などを承認。また新役員を選出し、五月十四日の理事会で新理事長に早坂貞彦前副理事長を互選した。(二・五面に関連記事)

開会に先立ち、会員総数二千二百二十五人(年度末)、出席者百二十八人、委任状千四百十二人により、大会が

このたび、理事長の大任をお受けすることになりました。才覚乏しく不安一杯ですが、誠心誠意努めて参りますの



で、皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

来年は芸術祭50回展、その翌年は芸術協会創立50周年を、そして今年は法人化20周

年であり、加えて来年度は公益法人の認可を目指しております。従って本年は種々準備の年でもあります。

芸術の輪を広げよう

新理事長 早坂貞彦

芸術協会の所期の目的は定款にも明記されているように「宮城県における芸術文化の支柱となり、その振興発展に寄与する」という広く県民へ

営委員を選出した。小山理事長より、「大震災から一年が経過したが、この間、秋の芸術祭は例年通り開催することができた。また新事務所の移転については芸術創立以来の懸案が解決することであり喜びに堪えない」などの挨拶があった。

執行部より公益社団法人移行準備の進捗状況について説明があり、平成二十五年四月一日に公益社団法人の登記を行い芸術協会の新しいスタートを切りたいとの報告があった。これに伴い、八月十八日に臨時総会を開催し、公益認定申請を決議すること

の奉仕を視野に入れたものでした。しかし、いつの間にか私を含めた会員の中に「会員各人のためまぬ創造活動と部

門や全体事業が良ければ充分」とする風潮が生まれ、現在はややもすると自己完結的閉塞状況に陥っているのではないかと思えてなりません。

が周知された。(二面に臨時総会案内記事)

議事においては平成二十三年度事業報告と決算について、平成二十四年度事業計画案と収支予算案について、新役員の選出について、定款の一部変更についての四議案が夫々協議され、執行部の原案通り可決された。

なお、理事長の選任に当たる互選のための理事会は、五月十四日に開催することを確認した。

その他として、役員の任期と年齢制限についての制度化に関する意見が出され、今後の検討事項となった。

芸術は周囲と共にある事によって開花する事が、戦後の状況やこの度の大震災の体験からも見えて来ました。この事が「今なぜ公益法人か？」の答えです。

これからの芸術協会は鑑賞や創作の喜びを県民と共に体験し、宮城県に芸術の輪を広めて行く事が大切です。「芸術の輪を広げよう」を合言葉として、これから皆様と共に努力して参りたいと思います。

この十年、東北を中心に八百余りの農山漁村を訪ねて、お年寄りの話を聞き集めています。その中で私たちの社会が見失った大切な物「希望」がたくさん発見できました。

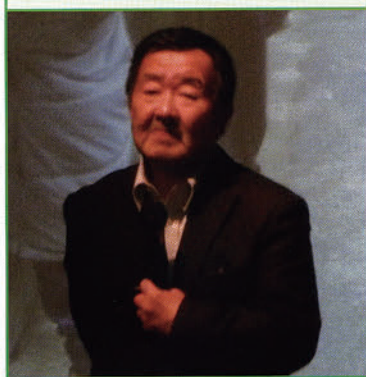
3・11の災禍で沿岸部の半農半漁の村は壊滅状態に陥りました。この地域を立ち上がらせるには支え合う心が大切です。「お互い様」の心は文化だと思います。

昭和四十年ごろまで、日本人のおよそ九割は六十から七十戸、人口三百七十人前後

東北の地域文化について

= 総会記念講演 =

結城登英雄氏



の集落で暮らす村人でした。しかし、農業のやり方が変化して生活の価値観が変わった結果、豊かさを求めて都会へ

のでしょうか。村の人々が教えてくれた「村がよい地域であるための条件」は次の七つです。①よい自然風土②よい

仕事場③よい居住環境④よい文化⑤よい仲間⑥よい学びの場⑦よい行政。

よい村、美しい村は初めからあったのではなくそうしたいと望む気持ちがある。子どもが大人から学び受け継ぐ地域文化の大切さが再生復興に繋がっている。この思いを深くしていま

八月十八日(土)にメディアテークで臨時総会

新法人の定款など審議

欠席者は必ず委任状提出を

来年四月一日からの公益法人移行に向けた芸術協会平成二十四年度臨時総会が、八月十八日(土)午後二時から仙台市青葉区のせんだいメディアテーク七階スタジオシアターで開かれる。臨時総会では、新法人の定款や事業内容などの重要案件が審議される。

新役員決まる

平成二十四年度通常総会および第二回理事会で選任され

た役員は以下のとおり(敬称略、○印は新任)。

▽理事長 ○早坂貞彦▽副理事長 ○雫石隆子、○高橋威仙▽常任理事 田村政晴、○大場尚文、○佐々木光一▽理事 金成有造(河北新報社)、鎌田宗州、牛島富美二、佐藤淳一、菅原関也、○跡部高染、高橋通子、○田家千恵子、○内木邦子、中塚仁、橋本昌彦、朴澤一堂▽監事 片倉義和(公財カメイ社会教育振興財団事

39氏に評議員を委嘱

評議員の任期満了に伴い、理事長は次の各氏に新評議員を委嘱した。公益社団法人化との関係で、任期は一年となる(敬称略、○印は新任)。

吾妻篤、浅井元義、浅野治志、安住英之、姉齒けい子、阿部邦利、○有賀華醇、飯淵健一、伊藤久子、及川茂、太田蓮紅、菊地南美、稀音家六城遊、草刈光露、工藤志香、小関俊夫、近藤孝則、今野善夫、桜井忠彦、笹川義信、○佐々木幸子、佐々木静月、佐藤朱希、志賀一男、菅原宗玉、鈴木紳一(河北新報社)、高橋厚子、建部恭子、丹野霞園、永井優、西村一紗、浜田堂光、早坂健、原秀一、布田庸子、本間潔、前原正治、宮澤寒山、門間翠葉

4氏に参事を委嘱

理事長は理事会の同意を得て次の四氏を参事に委嘱した(敬称略)。太田ゆり子、嵯峨大拙、高橋五郎、能島和明

主任・副主任の交代

(新任者のみ掲載。敬称略)

◎印は主任、○印は副主任

【絵画部】◎桜井忠彦、○吉田利弘【彫刻部】◎菅原裕、○大槻俊之、○虎尾裕【工芸部】○近藤孝則【書道部】○千葉蒼玄【華道部】◎本内一磯、○朴澤一草【音楽部】(洋楽)◎門脇磨美子【文芸部】◎あきた・じゅん、○坂内佳禰【写真部】◎笹川義信、○永井優

新入会員

【音楽部(長唄)】
▽加藤仁美(柴田郡大河原町)
▽杵家七可静(仙台市青葉区)
▽杵家七可鷺(東京都西東京市芝久保町)▽杵家七可葉(仙台市太白区)
【音楽部(邦楽)】
▽佐々木陽山(仙台市泉区)
〓お詫び〓

前号(はなやま192号)の「新入会員名簿」で、茶道部の麻本宗澄、川村宗津、佐藤宗博、鈴木宗良、松本宗真、渡辺宗久各会員のお名前を、「表千家」の欄に掲載いたしました。が、「裏千家」の誤りでした。皆様にご迷惑をお詫びし、訂正させていただきます。

平成 23 年度 事業 報告

平成23年度も宮城県における芸術文化の支柱となり、常にその振興発展を寄与することを目的とし、下記事業を行った。

①宮城県芸術祭の開催

事業名	期 日	会 場	入場者数	出品点数等
開場式	9/23	せんだいメディアテーク 5 F	70名	
書道展	9/23 ～ 28	せんだいメディアテーク 5 ・ 6 F	4,212名	322点
工芸展	9/23 ～ 28	せんだいメディアテーク 5 F	2,104名	84点
絵画展	9/23 ～ 10/12	せんだいメディアテーク 5 ・ 6 F	10,938名	日本画60点・洋画239点
華道展	9/30 ～ 10/5	せんだいメディアテーク 5 F	2,884名	前期・後期各32点
彫刻展～彫刻部会員とその仲間展2011～	9/30 ～ 10/5	せんだいメディアテーク 5 F	2,154名	会員展作品26点・仲間展作品5点
写真展	10/7 ～ 12	せんだいメディアテーク 5 F	2,583名	115点
文学散歩	9/27 ～ 28	青森・八戸方面	34名	—
茶会	10/9・16・23	輪王寺	3,729名	—
長唄演奏会	10/16	仙台市民会館小ホール	194名	32名
「宮城県文芸年鑑」発行	10/15	—	—	—
音楽会	10/31	仙台市青年文化センター	531名	14名
文芸祭	11/20	仙台市戦災復興記念館	59名	—
工芸展蔵王展	10/14 ～ 19	蔵王町ふるさと文化会館	560名	53点
絵画・書道展大和展	11/7 ～ 13	大和町まほろばホール	677名	日本画14・洋画44・書49
絵画・書道展塩竈展	11/16 ～ 20	ふれあいエスプ塩竈	578名	日本画15・洋画41・書47
写真展栗原展	11/8 ～ 13	栗原文化会館	260名	115点
閉会式	11/24	ホテルメトロポリタン仙台	256名	—

②芸術文化に関する展覧会、講演会、研究会、発表会の開催

事業名	期 日	会 場	入場者数	出品点数等
県民との美術交流・人物クロッキー ・ギャラリートーク	10/8	仙台市福祉プラザプラザホール	61名	
		せんだいメディアテーク 5 ・ 6 F	35名	
第4回宮城の気鋭展	1/10 ～ 19	LBギャラリー	813名	27点
宮城県芸術協会 絵画部門現審査員 作品に見る「継承する力」	1/31 ～ 3/11	カメイ美術館	1,820名	27点
第32回音楽コンクールピアノ部門 ・予選 ・本選	2/19	仙台市戦災復興記念館 カワイミュージックショップ仙台	(参加者) 118名	
	3/20	仙台市戦災復興記念館	39名	
みやぎミュージックフェスタ2011in岩沼	3/17	岩沼市民会館	506名	

※例年、春に開催される河北新報社との共催「杜の都大茶会」は震災により平成23年度は中止。※年度の当初事業計画にあった「みやぎミュージックフェスタin大崎」は開催地区の都合により中止となったが、岩沼との共催により「みやぎミュージックフェスタ2011in岩沼」として開催した。

③国内及び国外との芸術文化の交流

事業名	期 日	会 場	入場者数	出品点数等
2011東北・北海道交流短詩型文芸・色紙作品展	6/7 ～ 12	コンチネンタルギャラリー(札幌市)	530名	259点(内本協会15点)

※韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市連合会との共催で仙台を会場として開催する予定で準備を進めていた「仙台・大邱国際芸術交流展」は、震災により施設やホテル等の手配に見通しがたないことから両団体で協議の上、平成24年度に延期することとした。※平成23年度より再開する予定であった宮城県と中国・吉林省との交流事業について宮城県より事業協力の要請を受けていたが、震災により中止となった。

④研修会の開催

事業名	期 日	会 場	入場者数	備考
絵画部スケッチ研修会	5/14 ～ 15	秋田県(男鹿半島方面)	31名	
講演会「伊達政宗と狂歌」講師：東海林 恒英氏	6/11	常盤木学園シュトラウスホール	103名	
書道部研修会「茶席と書」講師：高橋 威仙氏	9/25	仙台市戦災復興記念館	65名	

⑤機関紙「はなやま」の発行

事業名	発行号数	発行日	発行部数	内 容
機関紙「はなやま」発行	188号	5/18	2,550部	・総会告知、新入会員一覧、各事業紹介等
	189号	7/27		・総会報告、平成22年度事業報告・収支決算、平成23年度事業計画・収支予算、震災対応等
	190号	10/31		・第48回宮城県芸術祭報告、臨時総会告知、芸術選奨受賞者紹介、協会HP開設報告等
	191号	1/20		・理事長年頭挨拶、事務所移転報告、震災復興支援事業紹介、第48回芸術祭受賞者一覧等

平成 24 年度 事業計画

①宮城県芸術祭の開催

事業名	期 日	会 場	事業概要
開場式	9/28	せんだいメディアテーク 5 F	各部門による企画・運営のもと会員の発表の場としながら、県民に対して芸術・文化の鑑賞の機会を提供することにより、宮城県における芸術文化の振興発展を図る。宮城県・宮城県教育委員会・仙台市・仙台市教育委員会・河北新報社・公益財団法人宮城県文化振興財団。
絵画展	9/28 ～ 10/10	せんだいメディアテーク 5・6 F	
写真展	9/28 ～ 10/3	せんだいメディアテーク 5 F	
華道展	10/5 ～ 10/10	せんだいメディアテーク 5 F	
彫刻展～彫刻部会員とその仲間展2012～	10/5 ～ 10/10	せんだいメディアテーク 5 F	
書道展	10/12 ～ 10/17	せんだいメディアテーク 5・6 F	
工芸展	10/12 ～ 10/17	せんだいメディアテーク 5 F	
文学散歩	9/25 ～ 9/26	栃木・茨城方面	
茶会	10/14・21・28	輪王寺	
「宮城県文芸年鑑」発行	10/15発行	—	
長唄演奏会	10/21	仙台市民会館小ホール	
音楽会	10/31	仙台市青年文化センター・コンサートホール	
文芸祭	10/27	仙台市戦災復興記念館	
工芸展美里展	10/23 ～ 10/29	美里町近代文学館	
写真展村田展	10/25 ～ 11/1	村田町町民体育館	
絵画・書道展大崎田尻展	10/31 ～ 11/3	大崎市田尻沼部公民館	
閉会式	11/29	ホテルメトロポリタン仙台	受賞者を顕彰し、芸術祭を閉会する。

②芸術文化に関する展覧会、講演会、研究会、発表会の開催

事業名	期 日	会 場	事業概要
第16回杜の都大茶会	5/26・27	勾当台公園	県内の茶道愛好者及び一般の方々に広く茶道の魅力をアピールし、茶の湯文化の継承・発展に寄与するため開催する。河北新報社と共催。
県民との美術交流・人物クロッキー ・絵画楽園 ・ギャラリー・トーク	—	—	絵画を愛好する初心者から上級者までを対象に、作品解説や技術指導を行い、多くの県民に絵画に対する理解を深める機会を提供する。
	10/6	せんだいメディアテーク 5・6 F	
みやぎミュージックフェスタ	未定	未定	県内各地域との共催により、会員による演奏及び鑑賞の機会を提供する。
第5回宮城の気鋭展	1/10 ～ 1/19	L B ギャラリー	本年度の宮城県芸術祭絵画展の受賞者及び受賞候補者の作品を展示し、県民に新進気鋭の作家の作品の鑑賞の場を提供する。
(カメイ美術館共催) 第4回絵画作品展	未定	カメイ美術館	当協会絵画部門の企画による絵画展とカメイ美術館との共催作品展。
第33回音楽コンクール(ピアノ部門))	予選2/17	仙台市戦災復興記念館	宮城県の小・中学校児童生徒の音楽的資質向上に寄与することを目的に開催する初級・中級・上級3部門のピアノコンクール。
	本選3/17	仙台市戦災復興記念館	
書道部による県内小中学校への講師派遣事業	通年	県内小・中学校	県内の小・中学校を対象に、希望校に書道部会員を講師として派遣する。
宮城県芸術祭併催展示部門公募展	絵画展9/26～9/30	宮城県美術館県民ギャラリー	当協会の会員以外の公募作品展として、多くの県民へ発表の場を提供し、後進の育成を目的とした作品展を各部による企画・運営で行う。
	彫刻展10/5～10/10	せんだいメディアテーク 5 F	
	写真展9/28～10/3	せんだいメディアテーク 5 F	

③国内及び国外との芸術文化の交流

事業名	期 日	会 場	事業概要
東北・北海道交流 絵画・写真展	6/13～17	秋田県立美術館	東北・北海道芸術文化団体協議会所属6団体との共催による作品展。
仙台・大邱国際芸術交流展—書道・工芸・写真—	6/12～6/17	宮城県美術館県民ギャラリー	韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市連合会との共催による作品展。
吉林省との文化交流事業	9月初旬	中国・吉林省	宮城県と吉林省の文化交流事業(書道展)に協力する。

④研修会の開催

事業名	期 日	会 場	事業概要
絵画部スケッチ研修会	5/19～5/20	青森県(岩木山方面)	会員に研修の機会を提供し、創作・発表活動の活性化に資する。
講演会「東北の地域文化について」(講師:結城登美雄氏)	5/12(総会)	仙台市福祉プラザ	
書道部研修会(講師:伊藤滋氏)	10/14	せんだいメディアテーク	
工芸部研修会	未定	未定	
第39回研修旅行	11/11～11/15	台湾方面	

⑤機関紙「はなやま」及び会員名簿の発行

事業名	期 日	事業概要
機関紙「はなやま」発行	年4回(4・7・10・1月)	会員や関係機関へ当協会の活動を公開するため発行(2,550部)。
「平成24年度社団法人宮城県芸術協会名簿」発行	7月下旬	隔年発行。

⑥その他

事業名	期 日	事業概要
東日本大震災復興支援事業	通年	書道部による被災地区の学校への校名板の贈呈、音楽部による演奏会など復興支援事業を各部による企画・運営で行う。

平成23年度収支計算総括表【決算】

(平成23年 4 月 1 日～平成24年 3 月31日)

科	目	合 計	一 般 会 計	芸術祭会計
I. 事業活動収支の部	1. 事業活動収入			
	基本財産運用収入	8,000	8,000	0
	入会金収入	1,240,000	1,240,000	0
	会費収入	20,660,000	20,660,000	0
	事業収入	5,319,178	1,993,000	3,326,178
	負担金収入	12,534,650	0	12,534,650
	助成金収入	400,000	0	400,000
	寄付金収入	8,543,283	8,253,283	290,000
	雑収入	207,999	72,999	135,000
	事業活動収入計	48,913,110	32,227,282	16,685,828
	2. 事業活動支出			
	事業費支出	23,615,051	5,161,861	18,453,190
	管理費支出	26,348,431	26,347,931	500
	事業活動支出計	49,963,482	31,509,792	18,453,690
	事業活動収支差額	△ 1,050,372	717,490	△ 1,767,862
II. 投資活動収支の部	1. 投資活動収入			
	法人運営引当資産取崩収入	12,000,000	12,000,000	0
	投資活動収入計	12,000,000	12,000,000	0
	2. 投資活動支出			
	土地取得支出	2,290,417	2,290,417	0
	建物購入支出	9,912,627	9,912,627	0
	什器備品購入支出	322,382	322,382	0
	投資活動支出計	12,525,426	12,525,426	0
	投資活動収支差額	△ 525,426	△ 525,426	0
III. 財務活動収支の部	1. 財務活動収入	0		
	財務活動収入計	0	0	0
	2. 財務活動支出	0		
	財務活動支出計	0	0	0
	財務活動収支差額	0	0	0
IV. 他会計振替額	一般会計から芸術祭会計へ	0	△ 1,967,862	1,967,862
IV. 予備費支出		0	0	0
	当期収支差額	△ 1,575,798	△ 1,775,798	200,000
	前期繰越収支差額	19,917,977	19,917,977	0
	次期繰越収支差額	18,342,179	18,142,179	200,000

平成24年度収支予算総括表【予算】

(平成24年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日)

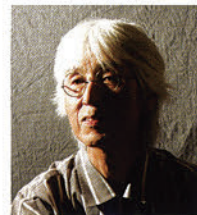
科	目	合 計	一 般 会 計	芸術祭会計
I. 事業活動収支の部	1. 事業活動収入			
	基本財産運用収入	20,000	20,000	0
	入会金収入	1,600,000	1,600,000	0
	会費収入	22,850,000	22,850,000	0
	事業収入	11,582,000	7,419,000	4,163,000
	負担金収入	12,977,000	0	12,977,000
	助成金収入	600,000	200,000	400,000
	寄付金収入	140,000	0	140,000
	雑収入	210,000	80,000	130,000
	事業活動収入計	49,979,000	32,169,000	17,810,000
	2. 事業活動支出			
	事業費支出	34,180,650	14,556,000	19,624,650
	管理費支出	20,655,000	20,655,000	0
	事業活動支出計	54,835,650	35,211,000	19,624,650
	事業活動収支差額	△ 4,856,650	△ 3,042,000	△ 1,814,650
II. 投資活動収支の部	1. 投資活動収入			
	投資活動収入計	0	0	0
	2. 投資活動支出			
	投資活動支出計	154,187	154,187	0
	投資活動収支差額	154,187	△ 154,187	0
III. 財務活動収支の部	1. 財務活動収入			
	財務活動収入計	0	0	0
	2. 財務活動支出			
	財務活動支出計	0	0	0
	財務活動収支差額	0	0	0
IV. 他会計振替額	一般会計から芸術祭会計へ	0	△ 1,794,650	1,794,650
V. 予備費支出		13,151,342	13,151,342	0
	当期収支差額	△ 18,162,179	△ 18,142,179	△ 20,000
	前期繰越収支差額	18,342,179	18,142,179	200,000
	次期繰越収支差額	180,000	0	180,000

芸術選奨に佐藤光郎氏、高松和樹氏は新人賞

平成23年度宮城県芸術選奨の授賞式が7月23日、宮城県民会館で行われた。当芸術協会の会員では、美術（洋画）の佐藤光郎氏が芸術選奨を、同じく美術（洋画）の高松和樹氏が芸術選奨新人賞を受賞した。

芸術協会の会員外では、杉崎正則（美術・彫刻）、高橋邦典（美術・写真）、三浦明博（文芸・小説）、神谷未穂（音楽・器楽）の各氏が芸術選奨を、須藤洋平（文芸・詩）、上島奈津子（演劇）の両氏とNPO法人20世紀アーカイブ仙台（メディア芸術）がそれぞれ芸術選奨新人賞を受賞した。

芸術選奨



(美術・洋画)
佐藤光郎氏

日々の研鑽に基づく深い精神性と独創性に富んだ技術力に定評があり、県内外で高い評価を受けてきた。二紀展では平成二十二年に同人賞を受賞、二十三年には会員に推挙された。美術界の次代のリーダーと期待されている。昭和28年生まれ。丸森町在住。

前に進める絵を

望外の荣誉にあずかり、関係各位に心より御礼申し上げます。平成六年度に新人賞の栄に浴しておりますので、その後の活動に対しても後ろ楯をいただいたように感じられ、何よりの励みとなりました。東日本大震災以降、「アートは無力なのか？」と自問しながらの制作が続きました。ご覧いただいた方がほんの少しでも明日に向かって進める気がしてくる。そんな絵が描けたら本望です。

芸術選奨新人賞



(美術・洋画)
高松和樹氏

ジグレイ版画と手作業により、磁器のようなミクストメディアを創出、国内外の注目を集めている。平成23年度は県芸術祭で芸術祭賞、独立展で佳作賞を受賞。独創的な高松アートの発展にますます期待がかかる。昭和53年生まれ。仙台市青葉区在住。

今後またゆまず精進

宮城県芸術協会ははじめ多くの方々へ学ばせて頂き、そして名誉ある賞を頂き光栄の限りです。私も皆様のようになりたく思っております。頂きました賞に恥じぬよう、皆様より学ばせて頂いた事を無駄にせぬよう、今後も精一杯、たゆまず精進致しますので、なにとぞ指導のほど宜しくお願い致します。本当にありがとうございます。

杜の都大茶会

好天に過去最高の参加者

第十六回杜の都大茶会が五月二十六、二十七日の二日間、仙台市青葉区の勾当台公園で開かれた。昨年は東日本大震災の影響で中止されたため、二年ぶりの開催となった。

行って来場者をもてなした。幸いに両日とも天候に恵まれ、来場者は茶道部会員らが点てた抹茶や煎茶、和菓子の味を楽しんだ。茶会事務局によると、二日間の茶席の参加者は九千三十名となり、過去最高の人数を数えた。

大茶会には芸術協会の茶道部加盟十三流派が参加し、野点を

秋田で絵画・写真展

東北・北海道芸術協

東北・北海道芸術文化団体協議会が主催し、東北六県と北海道の各芸術団体の持ち回りで開催している交流事業が、今年は「東北・北海道交流絵画・写真展」として六月十三日から十七日までの五日間、秋田県立美術館（秋田市）で行われた。

今回は七道県の団体から合わせて九十七名が絵画・写真・版画を出展。芸術文化の向上と振興に資するための相互交流を図った。

当芸術協会からは絵画の部、写真の部それぞれ五点を

出展した。

なお今年度からは事務局が北海道から秋田県に移り、六月十三日に秋田市で平成二十四年度総会が開かれた。



作品展示風景

大邱との交流展終わる

「それぞれの良さを堪能」



通訳を介して芸協会員との交流を図る大邱芸総の文会長

当協会と韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市連合会との交流事業「仙台・大邱国際芸術交流展―書道・工芸・写真―」が六月十二日から十七日まで宮城県美術館県民ギャラリーにおいて開催された。開催にあたり、六月十一日から十四日まで、大邱市から十五名の訪問団を迎えた。

交流展では、当協会から書道四十点、工芸四十点、写真二十点の計百点、大邱側からは書道十四点、文人画十一点、工芸十五点、写真二十五点の計六十五点が展示された。

今年の文学散歩は芭蕉紀行に触れながら文学館、袋田の滝、白河の関跡などを訪ねる変化に富む興味深い内容です。

【募集要項】

日時・九月二十五日(火)、二十六日(水)の一泊二日
募集人数・四十名
参加費・二万四千円

十三日から的一般公開に先立ち、十二日に開場式と関係者による内覧会が開催された。開場式には来賓の駐仙台大韓民国総領事館の李凡淵総領事

など百二十五名の参列があり、盛大なオープニングセレモニーとなった。式では、昨年大邱側より本協会に寄せられ、宮城県に寄付された義援金に対する村井嘉浩宮城県知事からの感謝のメッセージと感謝

平成25・26年度も継続
交流事業協定書に調印

当協会と大邱芸総との交流事業に関する協議が六月十二日に協会事務所会議室で行われ、平成二十五、二十六年度も交流事業を継続すること

申し込み・九月七日(金)まで芸術協会事務局(022-261-7055)へ

【日程とコース】

【九月二十五日(火)】

仙台駅西口バスプール8:30
出発―矢吹IC―中山義秀記念文学館―宇都宮IC―昼食―山本有三ふるさと記念館―宇都宮美術館―日立南IC―17:40

状が横田豊環境生活部消費生活・文化課長から大邱芸総の文武鶴会長に贈呈された。展示期間の来場者は千六十八名となり、協会には「両地域の芸術に触れられ、それぞれの良さを堪能できた」「日本と韓国の芸術源流は同じだと感じた」などの声が寄せられ、本年も両団体が芸術文化の交流を深める実り多い事業となった。

意見が一致し、協定書が調印された。協議では来年度からの交流事業を舞台芸術とすることや実施時期を九月―十月とすることなども確認された。具体的な交流分野は今後両団体で検討していくことになった。

袋田温泉「思い出浪漫館」到着、宿泊
【九月二十六日(水)】
出発9:00―袋田の滝―雲巖寺―遊行柳―白河の関跡―南湖公園―昼食―白河IC―仙台駅16:40到着、解散
会員以外の方も参加出来ます。広くお誘い合わせの上、多数ご参加下さい。

研修旅行は台湾周遊

11月11～15日に実施

初めての方も歓迎

今年度の海外研修は、十一月十一日から四泊五日で「台湾の台北・高雄・台南・日月潭・鶯歌の自然と文化を探索する旅」と決まった。

「台北」は台湾最大の都市で、ここでは故宮博物院を半日かけてじっくり見学する。

「高雄」は台湾第二の港湾都市で、澄清湖、蓮池潭、孔子廟など観光スポットが多い。

「台南」は清朝時代初期台湾の首府で政治・経済・文化の中心地であった。そのため多くの旧跡が残り、「台湾の京都」とも呼ばれている。「日月潭」は台湾で最も大きな湖。ここから見る夕日は美しく台湾八景の一つに数えられている。

「鶯歌」は台湾陶芸の中心地で中国・清の時代に始まる永い歴史を誇っている。

要項等詳しくは、同封のパンフレットをご覧ください。この研修旅行は芸協の全会員を対象としており、特に初参加の会員を期待している。

事務局 日誌

会務報告

- 4・20 監事会
 ○平成23年度業務執行状況及び会計監査
 4・23 理事会
 ○平成23年度事業報告及び決算について
 ○監事の推薦について
 ○定款の一部変更について
 ○評議員の推薦について
 ○新入会員（正会員）の承認について
 ○仙台・大邱芸術交流に関する協定書の締結について
 ○芸術祭工芸部門に宮地房江賞を設けることについて
 5・12 平成24年度通常総会
 ○平成23年度事業報告及び決算について
 ○平成24年度事業計画案及び収支予算案について
 ○理事及び監事の選任について
 ○定款の一部変更について
 5・14 理事会
 ○理事長・副理事長・常任理事の互選について
 ○参事の委嘱について
 ○新入会員（正会員）の承認について
 ○公益社団法人準備委員会委員について
 5・28 第49回宮城県芸術祭委員会
 ○第49回宮城県芸術祭について
 ①役員（案）について
 ②事業計画（案）及び予算（案）について
 ③授賞割当て（案）について
 ④挨拶ロケーションについて
 後援
 ☆第42回宮城書芸院書展
 5月16日～20日

- 大崎市民ギャラリー緒絶の館
 ☆第6回書学社現代書展
 5月22日～27日
 塩釜市生涯学習センター
 ☆二科会写真部宮城支部展
 6月30日～7月4日
 せんだいメデアテーク
 ☆第47回チャールズ会仙台展
 7月6日～11日
 せんだいメデアテーク
 ☆第43回蔵王写生会展
 7月6日～11日
 せんだいメデアテーク
 ☆第48回宮城水彩展栗原展
 7月6日～14日
 栗原文化会館
 ☆第16回グランラパン協会展
 7月13日～18日
 せんだいメデアテーク
 ☆第40回宮城野書道展
 7月20日～24日
 せんだいメデアテーク
 ☆第29回日本新工芸東北会展
 7月20日～25日
 せんだいメデアテーク
 ☆第23回宮城展示会美里展
 7月21日～29日
 美里町近代文学館町民ギャラリー
 ☆第57回筆祭り全国書道展
 7月27日～8月1日
 仙台市民会館展示室
 ☆第35回仙台の四季を描く絵画展
 8月3日～8日
 せんだいメデアテーク
 ☆和京会代表作家展
 8月17日～22日
 せんだいメデアテーク
 ☆宮城野書人会 学生展
 8月24日～29日
 せんだいメデアテーク
 ☆第20回記念宮城独立美術展
 8月24日～29日
 せんだいメデアテーク
 ☆第26回2012日洋展仙台会場

- 8月31日～9月5日
 せんだいメデアテーク
 ☆2012仙台オペラ協会第37回公演「ドン・ジョヴァンニ」
 9月8日
 東京エレクトロンホール
 ☆第27回都山流尺八演奏会
 9月9日
 仙台市青年文化センターシアターホール
 ☆震災復興チャリティ公演
 父恋狂想譚
 9月12日～13日
 東京自由学園明日館
 9月22日
 宮城「せんだいメデアテーク」
 ☆第51回新洋会展
 9月21日～26日
 せんだいメデアテーク
 ☆歌曲のたのしみ三塚典子ソプラノリサイタル2012
 仙台市青年文化センターコンサートホール
 ☆第32回「日本の調べ」演奏会
 10月6日
 イズミティ21小ホール
 ☆日本歌曲と朗読の夕べ「きのう、今日、そして明日へ」
 10月11日
 仙台市戦災復興記念館記念ホール
 ☆吉岡孝悦作曲マリンバ打楽器アンサンブル作品演奏会仙台公演
 10月12日
 イズミティ21小ホール
 ☆第56回仙台三曲協会定期演奏会
 10月14日
 仙台市民会館大ホール
 ☆新藤典子・菊地美奈子ジョイントコンサート
 10月17日
 仙台青葉荘協会
 ☆第21回河北工芸展
 10月19日～24日
 せんだいメデアテーク

会員の入賞・入選など

- ◇上野の森美術館大賞展入選
 〈日本画〉櫻田勝子、奥山和子
 〈洋画〉菅原典子、佐藤光郎
 ◇第2回青木繁記念大賞西日本美術展 優秀賞▽洋画▽佐藤光郎
 ◇全国絵画公募展第27回INUBU佳作▽洋画▽佐藤光郎
 ◇第75回河北美術展
 〈日本画〉▽河北賞▽奥山和子▽東北放送賞▽宮澤早苗▽新人奨励賞▽新井静子〈洋画〉▽JAL賞▽山形牧子▽秋田県知事賞▽佐治紅実▽宮城県教委教育賞▽佐々木康夫▽仙台市教委賞▽尾形たき子▽渋谷栄太郎賞▽帆船清治▽東北電力賞▽阿部好江▽山本壮一郎賞▽鈴木智枝〈彫刻〉▽仙台市長賞▽山中ミサ子
 ◇第26回日洋展入選
 〈洋画〉小野静子

受贈書

高倉健作陶集1973～2003・高倉健陶のあかり作品集・陶と書のコラボレーション・みやぎ工芸美術の歩み（高倉健）、菊地栄子歌集落葉の高（菊地栄子）、句集米壽（古山のほる）、歌集翼をのべて（大坂康子）

謹 弔

文芸部（川柳）小野まき子殿
 平成23年9月7日
 絵画部（洋画）太田邦三殿
 4月17日
 油井克郎殿
 5月6日
 杉本溪泉殿
 5月16日
 書道部

けやきの譜

プロ野球・東北楽天が健闘している。貯金3つで、2位とは小差の3位につけているが（7月17日現在）、好調の要因は若手の台頭だ。当初は主力投手の移籍や離脱で、先行きが危ぶまれたものの、新人をはじめとする若手投手陣の活躍が目立っている▼これに刺激されたわけではないだろうが、5月の芸協総会で理事長以下の三役が新メンバーに交代した。理事長は前副理事長からの「昇格」だが、6年ぶりの理事長・副理事長の交代には、新時代への期待がかかる▼前三役の情熱と尽力には深い敬意を表するものだが、来年度からの公益法人化が予定されている芸協としては、三役の交代は必然のことだったのかもしれない。「新しい酒は新しい革袋に」である▼大震災から1年4カ月が過ぎたが、復興への足取りはまだまだ重い。芸協としても、貢献を求められることが大いにありそう、新体制への期待はこの意味からも大きいものがある。

(恂)